

2014 年 10 月 1 日

・ご主人の手記

H24 年 12 月に私の嫁は癌と告知され、某大学病院で開腹手術による子宮と卵巣の一部とリンパ節の一部を摘出しました。初期だとの診断でホルモン療法を希望しましたが、年齢のこともあり子供を授かる少ない可能性より、本人の命のために先生に諭されやむなく手術する事になりました。手術は無事終わり、術後 2 週間程度で退院し、3 ヶ月に一度の血液検査をして異常なく平穏な生活を取り戻したかのように思っていました。腹部の激痛によって、また不安な日々に戻りました。術後約半年で癌の再発... 担当医からは、こぶし大の腫瘍が腹膜に見られる事から、抗癌剤で小さくしてから手術といわれました。(癌治療の 3 大療法である、手術、抗癌剤、放射線のうち、手術と抗癌剤投与の後に、再発によって転移が腹膜に見られました。このような転移癌が私の漢方鍼灸免疫療法によって、自覚症状のみならず癌病巣が縮小し、高値であった癌マーカーが完全に正常に戻ったのです。患者さんでいらっしゃる奥様の手記も一緒に読んでください。)

実は、癌の告知をされてからも、手術することを決断してからも、ネットや書籍で、いろいろ調べて手術という選択が、本当に正しいのか？他の選択肢は無いのかと... 暇さえあれば探していました。その時に、癌放置、癌もどき、抗癌剤は効かないなど、近藤誠先生や中村仁一先生の書籍を古い物も新しい物も読み、安保徹先生の免疫力などなど... 手術以外の選択肢を模索していました。さらに遡れば数年前から、健康のためには小食がいいのでは... たぶんきっかけはネットだったと思いますが、断食、特に甲田療法に興味を持ち、松井二郎氏の 1 日 2 食健康法というメルマガを読んでいくうちに、松井さんがクローン病で大阪高槻の松本医院に通っているということを知り、難病のこと、ステロイドのこと、病気とか医学業界のこと、なにより松本先生のことにごく興味が出て、先生の理論や患者さんの手記など、よく読んでいました。しかし、残念なことに癌は、遺伝子の異常であり、病気では無いとのこと... (5 大栄養素以外の異物が人体に入って、それを排除する正しい戦いが病気なのです。病気は良いことなのです。問題は異物が人体に侵入することだけです。ただ癌は、外から入る異物ではなく、自分自身の正常な遺伝子が突然変異によって異常な遺伝子になり、細胞が癌化し、自分自身のみならず他の細胞をも正常に働かせなくし、人体の生きるために必要な機能が発揮できなくなり、最悪の場合には死に至るのです。ところが、自分の細胞といえども、癌遺伝子は異常な

タンパクを細胞で作り、この異常なタンパクを免疫が見つげ出すと殺すことができることも分かっています。ところが、癌細胞は元来自己の一部であったものですから、なかなか免疫に見つげられない性質がある上に、見つげられないような工夫をするものですから、免疫が働きにくいのです。

私は癌は老化の一つであると言いつけていますが、若くして癌になる人もいますし、100歳を超えても癌がないどころか健康な老人もたくさんおられます。最近の報道では100歳を超える日本人は6万人近くもいます。このような長寿のご老人は、なぜ癌にならないのでしょうか？人間には60兆個の細胞があります。その細胞のうち毎日1000個以上の細胞の遺伝子が癌遺伝子に変異していることが分かっています。ところが変異した遺伝子は、癌にならないような様々な働きにより排除されています。この働きにはもちろん免疫が関わっています。一言でいうと、免疫の働きが活発である人は癌になりにくいということも分かっています。だからこそ癌になりたくなければ免疫を抑えるようなストレスの多い生活をしてはいけません。彼の奥様に対して私はひとつだけアドバイスしました。『身を捨てて浮かぶ背もあるこの世の中』です。つまり諦めることです。諦めることができれば自分の心で免疫を抑えることはなくなるのです。汚いエゴを捨てることです。食欲や強欲を捨てることです。欲のない生活には免疫を抑えるステロイドホルモンは不必要に増えることはないのです。彼女はそれを実践したようです。)

癌が再発し、このまま不信感を抱いたまま大学病院のいいなりになれば... と最悪のことが頭をよぎり、近藤先生のセカンドオピニオンを受ける事にしました。とはいっても、再発と診断されてから、迷いに迷った揚げ句でしたので、もう3ヶ月近く経過していて、おなかの腫瘍はどんどん大きくなり、普段の生活、歩くこと階段の上り下りが辛くなっていたが、東京まで診断を受けに行きました。近藤先生は、あなたの癌は、故逸見さんのスキルス性胃癌に似た、たちの悪い本物の癌だと...。すでに、おなかが大きくなって(もう20cm以上)、腸などを圧迫して苦しいので、その症状を軽減、これ以上進行しないようにする為に、放射線を正常な臓器に当たらないように、軽く(2グレイ×5回)するようにいわれた。放射線は、大学病院ですることになりましたが、担当医とすったもんだがあり、なんとか自分達の望む治療をしてもらうことに決まり、放射線をする事になりました。(近藤先生のところで3つめの放射線治療をされたのです。)

そして放射線治療後のことを考えている時に、やっぱり気になっていた松本医院のHPを読み返してみたのですが、なんとうれしいことに、癌と中国医学の免疫療法というコラムの中に『松本医院も、これから東京の真柄医院の真柄先生に見習って、積極的に癌の漢方・鍼灸治療を始めることを宣言します。～2013/08』と書いてあったのです。なんとという巡り合わせ、絶妙のタイミング。すぐにバスを手配して、数日後に向かいました。

松本医院受診。H25年10月

松本医院に最初に入ったときの感想など、いっぱいあるのですが長くなるので割愛します... 松本先生から、最初に「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」っていわれました。何となくその意味は、自分の身を犠牲にすれば、何かが出来ることだろうと思ったけど、それが何を意味しているのか...? 先生は愛読している英字新聞のコピーを取り出して、(私は以前から **International Newyork Times** や **The Japan Times** を毎日読んでいます。私の趣味は、昔は悩むことだけでしたが、現在は医学の勉強だけです。ワッハッハ！実はもうひとつ趣味があるのです。英字新聞を読むことです。邦字新聞は日本国という地方国の新聞と言ってもいいのです。ところが英字新聞を読むことで世界が見えてくるのです。真柄先生の記事も **The Japan Times** で見つけたのです。) 東京の真柄先生が免疫を上げる事で癌患者さんに喜ばれているという内容の記事、これを見て積極的にやるようになったと、でも、それには癌が治ったとは書いていないと... 説明してくれました。私達もHPで見て来た事や、これまでの経緯などを話しました。その途中にも次から次へと電話の子機とカルテがセットでやってくるわ、後ろでは看護師さんがファックスやカルテを取りにひっきりなしに通る。すごくこぢんまりとした診察室で、待合室まで聞こえていた声は、患者さんを見ながら、別の患者さんとの電話だった。患者さんの手記に書いているとおりだ... でも、こんな忙しく慌ただしい状況とは、思っ
てなかったの、びっくりした。先生は70歳を越えられているけど、(来年の3月7日で70歳の死にぞこないのじじいになります。) 見た目はスマートで、やせ形でダンディー？ いや、少し胡散臭そうな風貌に見えました(笑)が... 患者さんと電話で話している内容を全く隠さず、この人は、～病で、あんな、こんな症状があったけど、今はこの症状だけになっている。もう少しで、あれもこれも治るんや～って、目の前の私達に、少しでも参考になる事を、同じような症状の人が、治ってきている事を教えてくれるように話してくれた。『漢方はすごい～、なんせ中国の何人もの天才が何千年もかけて作り上げたもんやで。でも、俺が病気を治すんやない、漢方が病気を治すんでもないよ、自分が、自分の免疫が治すんや！俺はそれを少し手助けしているだけや、漢方やら鍼灸を使って、免疫を上げているだけや』って。本当に正直で、何よりも自信に満ちあふれていて、まっすぐな人だと直感しました。時には、電話で患者さんをしかりつけたりもしてるし、ちょっと思い違った事をいって、それを訂正されると、素直に謝っている。ホント裏表なく、一人ひとりを真正面から見てくれる人なんだろうなと感じました。

今までの大学病院では、担当医の意に反する事をいっても受け入れないような雰囲気と、予約してすら長い待ち時間があり、診察時間が数分なん

てことがよくあった。再発といわれたとき、抗癌剤だけは本当に嫌だと、いくらいっても、治療はその方法しか無いと... もうそれならばとセカンドオピニオンして、希望の治療法を押し通した結果、担当医とは、少し気まづくなかったが、抗癌剤の効く確率なんてせいぜい 30%で、副作用は 100%あるにもかかわらず、それ以外の治療法はないとの返答しかもらえず、免疫療法等は相手にしてもらえませんでした。最初は、初期だから手術をすれば治るといっておいて、退院後の検査は 3 ヶ月後、それも血液検査だけ、次の検査はまた 3 ヶ月後。その 2 回目の検査日より少し前に激痛で運ばれて、CT 等の検査して、再発している模様だと... その時には、大きくなって、腹膜に陰も見えるため、全て取り切ることが難しいので、まず抗癌剤で小さくして、その後手術するとの説明だった... そんな説明には到底納得できず、ただただ不信感が募るだけだった。でも大多数の患者さんは不信感があっても(あるのか無いのか? 不明だけど)先生のいいなりに抗癌剤をするんだらうなって思った。そんな患者さんばかりだから、私たちの反応、いや反抗に担当医は相当困惑してたみたい。もっと自分自身が勉強しなくては、医学の知識では勝てないからといって、全部先生のいいなりでは、後悔しそうな気がして、いや必ず後悔する時が来る。だから自分の命は自分で守る、死に方だって自分で決める。今後、どうありたいか、どう生きていきたいか、どう死にたいか、全て自分で決める。まあ、嫁のことなんですがね... でも、決めなければ、抗癌剤をした後では取り返しが付かないと思い、抗癌剤はしない、今後手術もしないと決断しました。(奥様も立派な方ですが、それ以上にご主人が人生の全てを知っていらっしゃる方だったので、奥様もご主人の心の力を得てご自分の癌を治されたと思います。「自分の命は自分で守る、死に方だって自分で決める。今後、どうありたいか、どう生きていきたいか、どう死にたいか、全て自分で決める。」なんと素晴らしい言葉でしょうか! 若くして艱難困苦を乗り越えられた男しか語れない諦観です。)

その決断をするにあたり、いや決断をした後かな、互いの両親、家族には説明をしました... 再発と診断されてから、いろいろと自分の考えは伝えてはきましたが、家族でも生死の話題、ましてや自分自身の生死を話す事なんて、ほぼ無い訳ですから... まあ納得してもらおうというより松本先生の理論、考え方を詳しく知ってもらおうことを主に話しました。それで抗癌剤や手術をせず松本先生に診てもらおう決断したことの報告をしました。(再発に際しては手術や抗癌剤の投与はされなかったのです。)

最初は、一般的なことから、知り合いや親戚が癌治療して成功した例を出してきて、大学病院の先生のいうとおりにした方がいいんじゃないか、といていた家族も、何度か説明している内に、自分らの体のことやから自分らが納得して決めたことをしたらいいって... なんとか理解してもらえた訳です。しかしその後でも、松本先生に会うまでは、少し不安を抱

いていたのは事実です。

話しが飛んでってしまいました... 松本先生と話をしたり、電話を聞いていると、本当に治るんだらうなって思える。でも、癌については、治るとはいつてくれない。その他の病気は、化学物質とヘルペスが原因で、外部から侵入した異物との戦いであり、ヘルペスは、絶滅させることはできないけど、封じ込める事は出来る。化学物質は、免疫寛容を起こし共存できる。でも、癌は、自分の細胞が変異したものなので、外部からの異物との戦いで無く、自分自身の細胞との戦いだから、癌の治療法や薬などは見つけ出されてはいないし、今後も発見されないと... それでも松本先生は、『俺は、癌は治せないけど、漢方やお灸で免疫を上げて、自分の力で癌を治して。それで、治ったら俺にも教えてや、本出してみんなにも教えてや。』って... ここで、『身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ』の意図する事がようやくわかった。自分の身を捨てる覚悟で、癌と闘いなさい(当然、武器は自分の免疫だ)、その気持ちがあれば必ず道は開けると、俺が戦う武器を強化する方法を教えるから、俺を信じて戦えって事だと思った。たとえそれを克服できなくても、手記や本を出す事で、多くの患者さんに勇気を与え、悩んでいる事が少しでも解消されれば、少しでも役に立つことができる。こんな考えは、自分の生死を真正面から見なければ考えの及ばない所だと思う。また、本当に癌を克服できれば、いわゆる癌の三大療法(手術、抗癌剤、放射線)に変わる、免疫力を高める漢方による治療が出来るかもしれない。すごく勇気をもらえたし、先生に従って漢方を続けなければ治るって思った。少し感じていた不安なんて、もうどこかへ飛んで行って微塵のかけらも無かった。(彼はすごい男ですね！この手記は彼に頼んだ訳ではなかったのです。にもかかわらず、なんと正確で、かつ洞察深いこの上もない素晴らしい手記です。なんと記憶力の良い方なのでしょう！しかも頭が良くて素直で繊細な方です。)

そんなこんなで、診察と鍼灸と帰りに薬局で漢方をもらって帰り、その日から漢方薬を煎じる日々が始まりました。漢方って2週間分ももらうとすごくかさばります。最初は持って帰りましたが、次からは電話して着払いで送ってもらってます。(徳島県の遠路から来られた方なので、遠隔治療を配慮してあげています。) 少し味見をしましたが、最初はカレーのような臭いと、後に残る甘みと苦みがあり、飲みにくいかなって思ってたが、すぐ慣れたようです。僕はもったいないし、お茶代わりに二番煎じを飲むようにしてました。二番煎じだと飲みやすいですね。漢方は劇的な変化が無いけど、ゆっくりと効いてくるとのことで、最初はあまり変化を感じず、しばらくは、体調も良くなったり、戻ったりしてましたが、続ける内にどんどん良くなっているのがわかったみたいです。毎日、ヘルペスの薬、漢方とお灸の日々～約3ヶ月間。

2 回目の松本医院受診。H26 年 1 月下旬

先生からは、問題なければ別にこなくてもいいといわれてたんですが、嫁が約 3 ヶ月と短期間でよくなってきて、うれしいのでその報告と、血液検査をしてもらいたいということで受診しました。松本先生は会うなり、顔色が良く、おなかも目立たなくなっているのを見て、『君(嫁)が主治医です。君が素直だから治ってきているんだ。俺が治したんじゃない。最近、電話の声も変わってきてたが、顔つきも見違えるほど良くなったね。病気を何が作るか理解したから、君の心が治したんや』って優しくいってもらえて、すごくうれしかった。嫁は、先生の教えてくれたとおりにしただけだし、特に何かを頑張ったわけでもない。毎日、ヘルペスの薬と漢方を飲んで、お灸をしていただけ、まあ、仕事を休んでストレスから解放されたことも、免疫力アップには大きいのでしょうか。(そのとおりです。体がしんどかったのは免疫がヘルペスと戦っていたからです。抗ヘルペス剤を飲んでおられるので、自分の免疫がヘルペスを殺している間にヘルペスが増えることがないので、どんどん体内の神経からヘルペスが減っていくのです。しかも仕事を休んでおられたからこそ、仕事のストレスから開放され、ゆっくりと自分の心を眺める時間もたっぷりあったので、免疫がどんどん上がっていくのです。彼女の癌は彼女が治したのです。私ではありません。実は彼女の癌も自分で作り、作った癌を自分の免疫で治したのです。)

僕はその二番煎じを飲んでますが、それが原因かな、両腕に丸く皮膚が乾いたようなものが出てきたので、ついでに先生に聞くと、『アトピーじゃよ。症状が出ることは、ええことや言うてるやろ、気になるようなら、漢方だすけど、悪いもん出し切ったら治るよ。自分の免疫が治してくれるよ。』って、なんだか、松本理論を身をもって体験できたように思えてうれしかった。血液検査ですが、最初の検査で『免疫が 8 しかない、放射線の影響か、免疫が下がりすぎてる』っていわれていたのが、今回それが倍の 16 にまで回復してました。(この「8」というのは、リンパ球の数のことです。免疫を司る血球を白血球といいます。末梢血に見られる白血球には 5 種類あります。白血球は全て骨髄で作られます。皆さんよくご存知のように 1 つめが最も多い好中球であり白血球の代表です。2 つめに好塩基球、3 つめに好酸球があり、この 2 つはアレルギーを起こす仕事をします。4 つめに大食細胞になる単球があり、最後の 5 つめに一番大事なリンパ球があります。彼女の初診時のリンパ球は、白血球全体の中のたった 8 % しかなかったのです。免疫が正常な人は、リンパ球が 35~40% あるのです。彼女は抗癌剤や放射能によってリンパ球を殺されてしまっていたので、8 % まで減っていたのです。最新の血液検査ではリンパ球は 22% に戻っていますが、それでも少ないのです。しかしながら最初のリンパ球よりも 3 倍近く増えています。これが免疫が上がるという意味です。

リンパ球について少し述べておきます。免疫が上がるということは一体何を意味しているのでしょうか？免疫の強さの度合いはリンパ球の数で分かります。免疫を落とす人間自身を作っている唯一の化学物質は何でしょうか？ステロイドホルモンです。正式には副腎皮質ステロイドホルモンです。英語ではグルココルチコイドといいます。このステロイドホルモンが骨髄にある末梢血のリンパ球の元になる幹細胞を殺してしまうのです。従って、ストレスが強くて、ステロイドホルモンを大量に出しながらストレスに耐えている人は、骨髄のリンパ球の幹細胞が殺されて減ってしまう結果、末梢血に出てくるリンパ球はとて少なくなるのです。つまり免疫を落として病気を作っているという意味は、自分のステロイドホルモンでリンパ球を殺しているという意味なのです。逆に言うと、リンパ球の数を見ればその人のストレスの度合いが分かります。ストレスが多いほど不幸せな人ですから、リンパ球が少なければ少ないほど幸せの少ない人と言えます。もちろん医者が抗癌剤やステロイドや放射能を投与して、骨髄のリンパ球の幹細胞を殺していない場合の話ですが。

つまり免疫を上げるということは血中のリンパ球を増やすこととであり、免疫を落とすということはリンパ球を減らすことです。現代の医療は多くが対症療法ですが、それでは対症療法とは何を意味するのでしょうか？リンパ球を減らして免疫の戦いができないようにすることです。よく効く薬とは一体何でしょうか？命を守るリンパ球を殺して敵と戦う力を削ぐことで戦いができなくなり、従って症状が出ない薬が一番よく効くとされるのです。この世で最もよく効く薬は何でしょうか？言わずと知れた合成ステロイドホルモンです。私がステロイドホルモンをはじめとする現代医学の薬が病気を作っているというのは、リンパ球を殺すからであります。自分の病気を自分の免疫で治すというのは、自分のリンパ球で自分の病気を治しているとうことなのです。アレルギーも膠原病も治らない病気になっているのは、結局はステロイドでリンパ球を殺し続けるからです。)ただ正常値は、さらにその倍以上の 32~40 です。この数値は白血球全体のうちリンパ球がどれだけ占めるか。つまりリンパ球の割合で免疫力のことだそうです。以前の松井二郎氏のメルマガに免疫が 12%で「死にぎわの老人の数値や(笑)」って松本先生にいわれたって書いてあったのを思い出して、読み返してみました。漢方を続けることでこれからもっとどんどん良くなっていくはずです。それと、心と病気は密接に関係しているって事を、今更ながら感じております。嫁のプライベートなことなので、詳しくは書きませんが、ストレス、特に仕事、人間関係でストレスは知らず知らず日々溜まります。性格もいろいろ関係して、さらには家族であっても心の中までは、わからないし、性格なんてものは、小さな頃からの親や友だちや周りの人間環境で積み重なり形成されたものだと思うし、これからも変わるはずだと思うのですが... このあたりは、文章にするのはとても

難しいですね。これは本人で無いと...割愛... (そのとおりです。彼は私よりも魅力的で面白い男です。)

今回は、途中経過としてまとめてみました。まだまだわからないことだらけですが、これからも西洋医学に頼らずに... といつか、もっともっと自分自身で考え、行動していきたいと思います。自分の免疫を信じて、自分自身を信じて、松本先生に教えていただいたことを実践して、健康を取り戻して、二人で楽しい人生にしたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。(患者さんで病気がよくなったにもかかわらず、自分の病気の手記をいくら頼んでも書いてくれない人がゴマンといます。にもかかわらず、彼は頼みもせず素晴らしい手記を書いてくれました。もちろん奥様も書いていただきました。私の病気を治す理論は、私独自の理論ではないのです。私が勝手に作り上げた理論ではないのです。全ての人が生まれた時から持っている自分の免疫の遺伝子の働きを誰よりもよく勉強しているので、まるで私があみ出した理論であるように思えますが、実は患者さんの免疫の遺伝子の真実を忠実に述べているだけなのです。この真実の遺伝子の働きによって病気は治ると素直に述べているだけなのです。

ところが現代の医学は先程述べたように病気をできる限り治さないように患者の免疫を抑える薬を投与しまくっているのです。確かに免疫の働きがなくなると、その間は戦いがなくなるので症状が取れて良くなったように見えますが、実はその間に癌細胞が増え、ヘルペスウイルスが増えているだけなのです。このような真実を実際に体験されるのは患者さん自身だけです。だからこそ証拠となるのです。残念ながら患者さんは医学の免疫の理論は全くご存知ではありません。ただ病気が治るかどうかは、理論ではなくて、患者さんの体験が証明してくれるのです。そうです！その病気が治る証拠が欲しいのでこのように患者さんに手記を書いてもらっているのです。患者さんが書く手記こそ真実の証拠になるからです。本当に素晴らしい手記をありがとうございました。完全に良くなった時には、さらに素晴らしい手記を書いてもらう予定です。お願いします！)

2014/10/16